

ひめした
姫下遺跡(本発掘調査B)

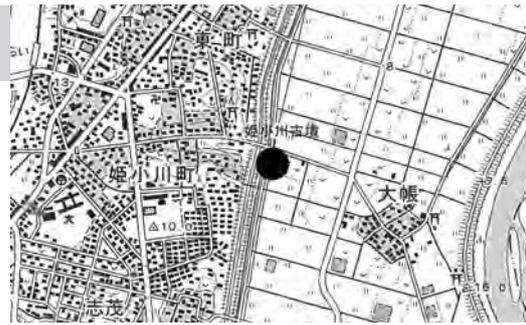
所在地 安城市姫小川町地内
(北緯34度54分45秒 東経137度05分47秒)

調査理由 中小河川改良工事

調査期間 令和5年1月～3月

調査面積 595㎡

担当者 樋上昇・永井邦仁・木村有作



調査地点(1/2.5万「安城」・「西尾」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局河川課による中小河川改良工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局から委託を受けて行った。当該遺跡では平成17～令和3年度に発掘調査がなされており、今年度は市道や用水路部分において4調査区が設定された。

立地と環境 遺跡は碧海台地東縁から下った沖積低地に立地し、標高は約7.0mである。遺跡西方約100mの台地上には姫小川古墳(古墳時代前期)が立地する。

調査の概要 22A区・22B区では、土師器と須恵器を包含する暗褐色～黒褐色シルト層下の基盤層上面で遺構が検出された。ただしその数は少ない。遺物の時期は古墳時代前期後半を中心としていることから、05A区・05B区・06C区から連続するものと位置付けられるが、比較的集落縁辺の状況を思わせる。これは、当該調査区の西側に南西方向に延びる台地の開析谷があり、そこからの支流との合流点によって不安定な地形になっていたことに起因すると考えられる。一方、22C区は弥生～古代の旧河道の延長上となっている。(永井邦仁)



調査区配置と22A区の様相